



はこにいったよ

ゆうひあかね

ねこおばさんがけいけんしたおはなしです

これは ねこおばさんが けいけんした おはなしです

あめがふりつづいて やっと やんだ きりの よる

だれもない まちに

しんごうきの あかや みどりのひかりが

ぬれたアスファルトに はんしゃして

テラテラと ひかっていた

とおく みちのまんなかに

ぴよこん

なにか ぼうのようなものが とびだしているのが 見えました

なにか

どンドン あるいていくと

ぴよこんととびだしている ぼうのようなものは

ねこの あしでした

なんども くるまが うえをとおりすぎて

ねこさんは ペちゃんこになって あめにぬれた グレーの ぞうきんのように

いつぼんの あしだけが ペちゃんこにならずに

ぴよこんと そらにむかって はねあがっていました

ここにいるよ

そういつているようでした

ねこさんはまだ こねこのようでした

いえにかえって ダンボールをもってきて きれいなタオルをしいて

そのうえに ねかせてあげました

おはな こねこのごはんも いっしょにいれました

そして ちかくの はやしの おおきなつばきの

つるつるした みきの ねもとに

ふかく ふかく あなをほって

ねこさんを うめました

つちのうえに おはなと おおきないしをおきました

まよなかの びょういんの かがみが

ピカピカ ほうせきばこのように

どうろのがいとうや つきを うつして いました

そのまえに ちゃいろの ふわふわのけのねこさんが よこたわっていました

ちかくに きょうだいなのか

そっくりなけいろの ねこさんが 2ひきいました

クンクン

においをかいだり

そっと とおくからみてみたり

ずっと ちゃいろの ふわふわのけのねこさんの そばにいました

ちゃいろの ふわふわのけのねこさんは

おきるようすもなく こちらに せなかをむけて

みちのまんなかで ねているようでした

ちかづいて かおのほうに まわりこんでみると

めをひらいて くちをあけて うごいていませんでした

きっと いっしゅんで くるまに はねられてしまったのでしょう

おとなのねこに なりきっていない わかい ねこさんでした

ちは すこししかでていなくて まるで ほんとうに ねているかのようでした

ビニールぶくろを てにはめて だきあげてみると

ぬくもりがのこっていて ぐんにやりしていました

いきていたときと かわらないようにもみえました

でも あたまのほうは つめたくなっていました

どうしよう とおもっているうちに

つめたいかんしょくは あたまから からだのほうに ひろがっていきました

ほんとうは ひとばん おつやを してあげたいけど

うちでは むりだから

ごめんなさい

ダンボールの はこをもってきて きれいなタオルをしいて そのうえにねかせて

おはなと ねこのごはんを いれて

まだわかい さくらのきがある おかのちかくの

ひっそりとした ばしょまで はこびました

「まだしんでないよ」

やさしい ちいさいおとこのこの こえが むねのあたりに にひびきました

ちやいろの ふわふわのけのねこさんの こえのようです

どうしよう もしも まだいきていて よくあさ めをさましたら？

からだは ぐんにやりしていましたが ぴくりともうごかず

さっきよりも つめたくなっていました

あなを ふかく ふかく ほりたかったけれど

もしも いきかえたら でてこれなくなるかもしれません

あなは あさくほって ねこさんを そっと いれました

おはなと ねこのごはんもいれました

もしかして めがさめたら でてこれるように つちは さっとかけて

そのうえに まあるいいしと おはなをおきました

おきなかったら どうか ほりかえされて しまいませんように

よくじつ

うめたばしょを みにくくと ちゃんと つちがかかっている

うえにおいた おはなや まあるいいしも きのうのままでした

あきの あめが 3かも4かも シトシト ふりつづき

つぎに ゴーゴー あれくるう たいふうがきました

やっと あめがやんだひ

まよなかの おうだんほどうに

しろくろぶちの しっぽのながい ねこさんが たおれていました

そこは あかいのれんの いざかやさんの めのまえです

ねこさんは めをみひらいて くちからちをながして うごいていませんでした

きっと くるまに はねられたのでしょうか

ねこさんの まわりは くるしんで もがいたのか

くるまにはねられたあとも どこかにいこうとしたのか

おうだんほどうにたおれた ねこさんの まわりに

まあるく グルグルと

ちのあとが バラの はなびらのように えがかれていました

ねこさんの しろい あしやてにも ちが ついていました

いたいね いたかったね

ちよっとうごかすよ

ビニールぶくろを てにはめて

しろくろぶちのねこさんを あかいのれんの いざかやさんのまえの

どうろのわきに いったんよせました

まだわかい おとなになるいっぽまえの おすねこさんでした

からだは ぐんにやりして

あたまから むねのあたりまで つめたくなっていました

はこをもってくるね ちょっとまっててね

いえにかえって ダンボールのはこをもってきて

24じかんの スーパーで

はなたばと ねこににんきのある パウチごはんも カリカリごはんも かいました

しろくろぶちのねこさんのところに もどって からだをだきあげると

てもあしも あたまのさきから しっぽまで

カチーンと かたくなっていました

はこに きれいなタオルをしいて

そのうえに カチーンとかたくなった しろくろぶちのねこさんを ねかせました

しっぽが ながいので かたくなっていると ぴーんとしてはいません

ちよつとごめんね

ねこさんの ぴーんとなった ながいくろいしっぽを

そつとカーブさせて はこにおさめました

はこのなかに さつきかった ねこのごはんを いれました

あかいのれんの おみせのかげから ちゃいろいねこさん

おうだんぼどうのむこうがわから くろっぽいねこさんが

こちらをじっと みていました

しろくろぶちのねこさんと おなじくらいのねんれいのように

きょうだいかもしれません

「ごめんね このまま おいておけないから

つれてかえって ちゃんとするからね

さよならしてね

なかまの みんなにも つたえてあげてね

くるまに きをつけてね」

そうはなしかけると きょうだいらしき ねこさんたちが

ちかくによってきて はこのなかを

クンクン として じつとのぞきこみました

はこにはいった しろくろぶちのねこさんを さかをのぼったところにある

みどりがいっぱいのもりに つれていくとちゅう

「クソ！ クソ！」

ふりょうっぽい おとこのこの こえがきこえました

しろくろぶちのねこさんのようでした

なんだか おこっているような かんじがしました

こころをすませて みました

さっき こちらを みていた きょうだいのような ねこさんたちの 1ぴきが

いもうとのように

そのこを まもってやれない

そんなきもちを かんじました

しろくろぶちのねこさんは やさしくて つよい おにいさんのようでした

さかをのぼって やまのうえの もりにつきました

ここは まちにはいない おおきなとりも たくさんいます

ふかふかの かれはのじゅうたんを おくまですすむと

くらいやみのなかに きいろや しろの おおきな きのが

ポコ ポコ

とはえていました

こんもりと はのしげった きこのような きのそばに

あなを ほることにしました

ふかく ふかく ほりたいけれど

きのねっこや かたいつちがあって なかなか うまくほれませんでした

ガツ ガツ ガキン

やっと ねこさんが はいるサイズの あなをほれました

そこに かたくなった ねこさんのからだを いれて

ねこのごはんは はなたばをいっしょに いれました

もう ありんこや だんごむしが やってきていました

じゃあ つちを かけるよ

つちをそっとかけて ねこさんをうめました

つちのうえに しかくい ひらたいいしと

はなたばからひとつ とっておいた

ひまわりを うえに おきました

ふと となりを みると かれたはなたばと まあるいいしが おいてありました

きっと だれかの だいじないのちが そこにねむっているのでしょう

そらを見ると まだ よあけまえで くもっていました

でも くもりぞらの むこうには いつでも ほしが たくさんあるのです

かれはのかげで うたう むしたちの こえが もりをつつみ

とりたちは それをききながら きのうえで やすんでいました

りょうてを いっぱいのぼしても だきかかえられない

ふといみきの くすのきが やさしく みんなを みまもってくれていました

ここは いのちが たくさんある もりです

しろくろぶちのねこさんは つちにかえって いのちをつなぎます

オレンジ むらさき マーブルもよう

カラフルなアイスを なめながら

かいものをたのしむ わかものが たのしそうに とおりすぎます

おしゃれなおみせが たちならぶ まちを

なつのはじめの たいようが ジリジリと てらしていました

きいろとくろの しゃだんきのある

おおきなちゅうしゃじょうの いりぐちに

ぎんとくろの しましまの ねこさんが たおれていました

おなかから ピンクいろの ちょうが ながく とびだしていました

ちゅうしゃじょうを でいりする くるまに ひかれたのでしょうか

ひとの りょうてのひらに のせられるほどの ちいさいからだでした

ちかくに おやねこさんは みあたりませんでした

きょうだいのねこさんも いないようでした

たったひとりで あついアスファルトのうえで ちをながしていました

ビニールを てにはめて だきあげて かべぎわに はこびました

ちよつとまってね はこをもってくるね

ちかくの おみせで ダンボールを もらってきました

コンビニで あたらしいタオル

スーパーで おいしい こねこのごはんは はなたばを かいました

ぎんとくろの しましまの こねこさんを はこんだ かべぎわにもどつてくると

たしかにそこにねかせておいた からだが みあたりませでした

スーパーのビニールぶくろが おきわすれの ごみのように ぽつん とありました

そばにたっていた あおい けいびふくの おとこのひとに

「ここに ぎんとくろの しましまの こねこさんが いませんでしたか」

とききました

けいびふくの おとこのひとは

「けいびがいしゃに ここに ねこが たおれていると れんらくがきました」

といました

「あすのあさ 8じすぎに ぎょうしゃの

いのくちしょうてんさん がひきとりにきます」

とって おきわすれの ごみのような しろいビニールぶくろを ゆびさしました

ぎんとくろの しましまの こねこさんは ビニールぶくろにいれられて いました

「ダンボールをもってきたので このなかに 入れて

ごはんや はなを おそなえしてもいいですか」

けいびがいしゃの おとこのひとにきくと

「ああ ぼくも おそなえは きになっていたの で すきにしてください

おわったら そこに おいておいてください」

そうって すぐに かえってしまいました

ごごの まちは ムシムシと しつけをおびて むしぶろのようでした

ビニールぶくろの しばったところを ほどいて こねこさんを だして

はこに きれいなタオルをしいて ねかせました

くちのそばに こねこのごはん からだのまわりに おはなをいれました

つちにうめてあげたいけど ここは アスファルトしか みあたらないね

わたしのいえの ちかくまで はこぶには とおいし

あなたの いきた なれた ぼしょにいるほうが

しらないところにいくより おちつくよね

あしたのあさまで ここにいてね

そして 8じすぎに いのくちしょうてん という ぎょうしゃさんが きて

あなたの からだを はこんでいくよ

あなたの からだを はこんでいって かそう してくれるよ

あなたは からだからはなれて じゆうだから

ねこのくにで とんではねて おもいきり たのしくあそんでね

こころのなかで ぎんとくろの しましまの こねこさんに はなしかけました

おはなを からだのきずが みえないように きれいに つめてあげました

もう いくね ごめんね

はこの ふたをとじていくね

ちょっと あつかいかもしれないけど もう たいようも かたむいてきて

すぐ よるになるからね

ふたを かぶせたほうが おちつくよね

それじゃあね

ダンボールの ふたを そおっとしめようとした そのとき

「ありがとう」

すんだ ちいさなおんなのこの こえが むねのあたりに ひびきました

まわりを キョロキョロ みまわしても だれもいません

ぎんとくろの しましまの こねこさんの ことばでした

こねこさんは ちいさかったけれど

きっとひとりで キリリと いきて

このまちで ぎんとくろの しましまの こねことして

うまれてから きょうまで

せいっぱい いのちを かがやかせたのでしょう

「ありがとう」

そのことばが サラサラ スーっと

ちいさな ほそながい かわのように めのまえを すぎさっていった あと

かれんな おはなが いくつも さいているような

やさしい くうきが ながれました

ねこおばさんは おもいました

ねこさんたちのこと えいえんに わすれないよ

きっと また あえるよね

げんきなすがたの みんなに

いつか

どこかで

おわり